



伴侶動物福祉へのご協力をお願い



～ペットを救うことは人を救うことです～



◎伴侶動物福祉の目的

- ・社会福祉法人心の会、そして特別養護老人ホームさくらの里山科は、伴侶動物福祉を重要な理念として掲げています。
- ・心の会は現在、高齢者福祉と障害者福祉に取り組んでいます。伴侶動物福祉は心の会にとって第3の柱となる福祉分野であり、新たな社会貢献を目指すものです。これから法人の総力をあげて伴侶動物福祉の創設に取り組んでいきます。
- ・伴侶動物福祉とは、人と一緒に暮らす犬や猫を伴侶動物として捉え人と伴侶動物を一体として命と生活を守るための福祉です。
- ・福祉とは全ての人が幸せに暮らせる、豊かで文化的な社会を作るものです。そして、犬や猫が幸せに暮らせる社会は豊かな社会であると言われています。心の会は、社会福祉法人として豊かで幸せな社会作りに貢献するために、伴侶動物福祉に取り組みます。
- ・犬や猫を飼っているお一人暮らしのご高齢者様が、介護が必要な状態になったら、家族同様の犬や猫を保健所に送らなければならない場合が多いです。それを恐れてご高齢になったら犬や猫を飼うのを諦める方も多数おります。私達は高齢になっても安心して犬や猫を飼うことができる社会を目指しています。
- ・現在日本では、飼い主に捨てられた犬が毎年数万匹、猫は数十万匹殺処分されています。これは世界の先進国の中では極めて多い状況です。そして殺処分される犬や猫の内、少なからぬ割合がご高齢者様が飼っていたものだと言われています。私達は現状を変えたいと願っています。



◎さくらの里山科における伴侶動物福祉の取り組み

♥犬や猫と一緒にのご入居を受け入れます

お一人暮らしで犬や猫を飼っているご高齢者様が、老人ホームに入る際に飼っていた犬や猫を保健所に送らざるを得ない場合があります。さくらの里山科では、ご高齢者様が飼い犬や飼い猫と一緒にご入居できます。

♥ご高齢者が残された犬や猫を受け入れます

お一人暮らしのご高齢者様が、飼っていた犬や猫を残してお亡くなりになった場合などで、残された犬や猫を受け入れます

♥ご入居者様が犬や猫と一緒に暮らせます

ご高齢になって犬や猫を飼うのを諦めていた方も、もう一度犬や猫と一緒に暮らすことができます。一緒に暮らす犬や猫として、引き取り手がなく殺処分予定だった仔や災害で飼い主を失った仔をひきとっています。

※特に引き取り手が見つかりにくい、年老いた犬や猫を受け入れていきます。

犬や猫にとっても老人ホーム（老犬ホーム、老猫ホーム）となります。



保健所で殺処分される直前のワンちゃん。最後まで人を信じています。この小さなかけがえのない命を救って下さい。

◎犬や猫と共に暮らす体制

- ・犬や猫と一緒にお連れになったご入居者様は、お部屋で一緒に暮らして頂きます。犬や猫の世話は職員が行います。
- ・2階（40室、4ユニット）を伴侶動物と共に暮らすフロアとして定めます。動物がお嫌いなご入居者様、アレルギーがあるご入居者に配慮して、3階、4階には犬と猫は立ち入らないようにします。
- ・2階の中で、Aブロックの2ユニット（2-1ユニットと2-2ユニット、各10室）を犬と共に暮らすユニットとします。
- ・2階Bブロックの2ユニット（2-3ユニットと2-4ユニット、各10室）を猫と共に暮らすユニットとします。



- ・2階の各ユニットでは、犬と猫は室内で人と一緒に完全に自由に生活します。完全室内飼いの環境です。

※犬を外につないでおき、たまに室内に入るといった飼い方ではなく、家族として人と一緒に室内で過ごします。

- ・犬と猫はユニットで自由に暮らしますので、ご入居者様のお部屋やベッドに入ることもあります。
- ・ご入居者様がご希望される場合は、お部屋に犬や猫の寝床をおいたり、ベッドで一緒に寝ることも可能です。

◎共に暮らす伴侶動物の管理

- ・犬も猫も、必要な予防接種は全て定期的に受けます。
- ・犬と猫は全て避妊、去勢済みです。
- ・さくらの里山科で暮らす犬と猫は、人間に感染する病気は持っていません。
- ・安全に管理するため、マイクロチップ（犬と猫の情報が入った小さな機械）を皮膚に埋め込んでいます。
- ・犬には定期的にフィラリアの予防薬を投与します。
- ・犬と猫には、年間通して定期的に、ノミ・ダニがつかなくなる予防薬を投与します。犬と猫がノミやダニを持ち込む心配はありません。
- ・犬と猫は定期的（2ヶ月1回以上が目安）にシャンプーをします。衛生面の心配はありません。
- ・犬と猫に異常があった時は、すぐに提携獣医師に診て頂きます。犬と猫の病気等がご入居者様の衛生面、健康面に影響を与えることはありません。
- ・犬のしつけについては、職員が提携ドッグトレーナーの指導を受けています。
- ・ボランティアの協力により、犬は毎日散歩に連れて行きます。犬のストレスがたまることはありません、
- ・犬は庭や屋上で走る機会を毎日数回つくります。ご入居者様にとっても、庭で一緒に光や風をあびながら、犬が走る光景を見ることは、大きな楽しみになることと思います。
- ・猫の爪とぎや、遊具（キャットタワー）を用意して、猫のストレスが溜まらないようにします。

犬のワクチン

- ・**狂犬病ワクチン**
法律で義務付けられている予防接種。毎年春に打ちます。
- ・**8種混合ワクチン**
犬ジステンパー、犬伝染性肝炎、犬アデノウィルス感染症、犬パラインフルエンザ感染症、犬バルボウィルス感染症、犬レプトスピラ感染症2種、犬コロナウィルスを予防します。1年に1回打ちます。

猫のワクチン

- ・**5種混合ワクチン**
猫ウィルス性鼻気管炎、猫カリシウィルス感染症、猫汎白血球減少症、猫白血病ウィルス感染症、クラミジア感染症を予防します。1年に1回打ちます。





◎伴侶動物と共に暮らすために

- ・伴侶動物フロアでは、職員を増員し、犬猫ボランティアの協力も得ますので、職員の介護の質が低下することは絶対にありません。
- ・ドッグトレーナーによる訓練も受けており、犬が人を本気で噛むことはありません。ただし、じゃれついて噛むなどの場合はあると思われます。そのような際に、もしご入居者様の皮膚を少し傷つけるような場合があっても、医療機関にいくなど必要な処置は全てさくらの里山科が行います。もちろんその費用もさくらの里山科が負担します。
- ・猫がじゃれてご入居者様を引っ掻くこともあります。万が一治療等の必要がある時は、さくらの里山科が責任を持って行い、費用も負担いたします。

※人にうつる病気を持っていない犬と猫を選んで引き取ります。

噛み傷や引っ掻き傷から病気が感染する心配はありません。

- ・犬と猫が、ご入居者様の私物を傷つけてしまい、弁償をご希望される場合は必要なお金をさせていただきます。ただし軽易な傷、痛みについてはご容赦願います。犬又は猫と暮らすことを前提として、少し傷ついても大丈夫な物をお持ち願います。
- ・犬、猫の糞尿については、すみやかに清掃し、消毒します。
- ・空気清浄機を設置し、臭いや毛の飛散の防止につとめます。
- ・伴侶動物のフロアについては、犬又は猫と一緒に暮らすことを事前にご了承し、お申込み頂いた方のみご入居頂きます。
- ・伴侶動物のフロアは、積極的に犬や猫と共に暮らしたいとご希望される方に適したフロアです。犬や猫がいても我慢できる、という方には適しておりません。よくお考えの上お申し込み下さい。



社会福祉法人心の会は伴侶動物福祉の創設に取り組めます

ご高齢になっても犬や猫と一緒に暮らし続けられる社会を目指して